

2026 年度宮城学院女子大学 一般選抜 C 日程（欠員補充） 小論文

I 以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合により公表できません

（『河北新報』社説 2025／4／9）

問 1. 本文の内容を 200 字程度で要約しなさい。

問 2. 今後、子ども食堂が地域社会においてどのような役割を果たす可能性があるかについて、あなた自身の考えを 600 字程度で述べなさい。

2025 年度宮城学院女子大学 一般選抜 C 日程（欠員補充） 小論文

【出題意図】

問 1 文章を読んで、書かれている内容を適切にまとめる能力をみる。

問 2 問われていることを理解し、自分の考えを明解に適切な日本語で表現する能力をみる。

【解答例】

問 1

「子ども食堂」は全国で増加し、2024 年度には全国で 1 万 866 カ所が活動した。子どもの貧困対策として広がった印象が強いが、近年は困窮家庭への支援にとどまらず、子どもの居場所や多世代交流の場としても機能している。民間主体の活動は多様な展開が可能だが、基盤が不安定であることが課題である。物価上昇に伴う資金繰りの厳しさもあり、政府や自治体による支援拡充に加えて、企業や市民の理解と支援がいっそう求められる。（196 字）

問 2

子ども食堂は子どもの貧困対策として始まったが、現在は、単なる食事提供の場を超えて、多様な機能を持つようになっている。対象者を子どもに限定せず、「子どもを中心に食卓を囲み、地縁を結び直す取り組み」が展開しているという。このような取り組みは、人口減少、少子高齢化が進む東北地方では今後一層重要性が高まるのではないかと考える。

具体的な展開の例として、子ども食堂に、学習支援と子どもの居場所支援の機能を持たせ、高齢者の協力を得ることが考えられる。小中学生の場合であれば、放課後や夏休みに宿題などの学習に取り組む場としても活用できる。ここでは、子ども同士で教えあうことはもちろん、地域の高齢者が子どもを見守りつつ、必要に応じて学習支援を行う。特に、教員経験のある高齢者の協力を得られれば、教育における格差を少しでも埋め合わせることができるのではないだろうか。また、大学生ボランティアの力も借りられるとなおよい。

さらに、子どもの居場所であるためには、勉強以外の活動も重要となる。そこで、園芸、日曜大工など各高齢者が得意なことを活かして、ものづくり体験を取り入れるのも良いだろう。これにより、子どもたちに豊かな体験と生活の知恵を提供できると同時に、交流を通して社会性を育む機会にもなる。そしてこれらの活動は、参加する高齢者にとっての生きがいや居場所づくり、さらには地域文化の継承にもつながる可能性があるだろう。 (598 字)